

環境コミュニケーション 公開フォーラム

「いいコミュニケーション」で「いい国際協力」

E-communication for E-cooperation

2003年3月

国際協力事業団

森林・自然環境協力部

－ 目次 －

プログラム	I
事例発表者／パネリスト略歴	II
会場写真	III
開催挨拶 宮川秀樹（JICA 森林・自然環境協力部 部長）	1
JICA の取り組み説明 三國成晃（JICA 森林・自然環境協力部計画課 課長代理）	3
第 1 部 事例紹介	8
事例 1 ネパール村落振興・森林保全 星陽子（元 JICA 派遣専門家）	8
事例 2 インドネシア生物多様性保全 原田一宏（財団法人 地球環境戦略研究機関 研究員）	17
事例 3 インド・チリカ湖湿地保全 中村玲子（ラムサールセンター（湿地と人間研究会）事務局長）	25
質疑応答	34
第 2 部 パネルディスカッション	37
参加者アンケート集計	69

国際協力事業団 主催
環境コミュニケーション
公開フォーラム
「いいコミュニケーション」で「いい国際協力」
E-communication for E-cooperation

日時：平成 15 年 3 月 6 日（木） 13：00～16：30

会場：JICA 国際協力総合研修所 国際会議室（東京・市ヶ谷）

～ プログラム ～

12:00 受付開始

13:00 開催挨拶（JICA 森林・自然環境協力部 部長 宮川 秀樹）

13:05 JICA の取り組み説明

JICA 森林・自然環境協力部 計画課 課長代理 三國 成晃

13:15 事例紹介

事例 1 ネパール村落振興・森林保全（星 陽子）

事例 2 インドネシア生物多様性保全（原田 一宏）

事例 3 インド・チリカ湖湿地保全（中村 玲子）

14:00 質疑応答・休憩

14:40 討論・協議

テーマ：

- 1 なぜ環境保全への意識が低いのか？ どうすれば意識を高めることができるのか？
- 2 なぜ環境保全のための活動が推進されないのか？ どうすれば推進できるか？
- 3 なぜ環境保全のための活動が持続しないのか？ どうすれば持続するか？

パネリスト：

阿部 治（立教大学 社会学部 教授）

原後 雄太（明治学院大学 経済学部 助教授）

星 陽子（元 JICA 派遣専門家（ネパール村落振興・森林保全））

原田 一宏（(財)地球環境戦略研究機関 研究員）

中村 玲子（ラムサールセンター（湿地と人間研究会）事務局長）

モデレーター：

須藤 和男（JICA 森林・自然環境協力部 計画課 課長）

16:30 閉会

「環境コミュニケーション」公開フォーラム

事例発表者／パネリスト略歴（順不同）

阿部 治（あべ おさむ）

立教大学社会学部現代文化学科、異文化コミュニケーション研究科教授
専門分野：環境教育

筑波大学環境科学研究科修士課程修了後、国立特殊教育総合研究所、環境庁国立公害研究所（現 国立環境研究所）、財団法人地球環境戦略研究機関などで客員研究員として活躍。筑波大学、埼玉大学で教鞭を執り、2002年より現職。

著書に「環境革命（2002.3, 東京書籍, 共著）」、「環境メディア論（2002.3, 中央法規出版, 共著）」などがある。

星 陽子（ほし ようこ）

元 JICA 派遣専門家
専門分野：社会／ジェンダー開発

JICA ジュニア専門員として従事後、2000年8月より「ネパール村落振興・森林保全計画II」に社会・ジェンダー専門家として派遣。

著書論文に「畜産とジェンダー（畜産技術誌）」、「The Comparative Analysis of WID/Gender Approaches Among Japanese, Bilateral and Multilateral Aid Organizations」などがある。

原田 一宏（はらだ かずひろ）

財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）研究員
専門分野：森林政策学、自然資源管理論

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。大学院在籍中より JICA 派遣専門家として「インドネシア生物多様性保全計画」、「インドネシア森林火災予防計画」などのプロジェクトに従事。2000年から「インドネシア市民社会のための教育支援センター」副代表を務め、現在に至る。

「東南アジアの熱帯林に居住する地域の人々による森林資源の利用および管理と国家による保護地域管理の共存」をテーマに、生物多様性保全を目指した住民参加型森林管理の可能性について研究している。

原後 雄太（はらご ゆうた）

明治学院大学経済学部助教授
バイオマス産業社会ネットワーク（BIN）共同代表
専門分野：森林政策、環境政策、資源管理

東京大学を卒業後、J.P.モルガン資金部マクロ経済アナリスト、WWF インターナショナル熱帯林保全担当官、米国フォード財団環境部、日本・ブラジルネットワーク（JBN）代表などを経て現在に至る。

著書に「バイオマス産業社会（2002, 築地書館）」、「アマゾンの畑で採れるメルセデスベンツ（1997, 築地書館）」などがある。

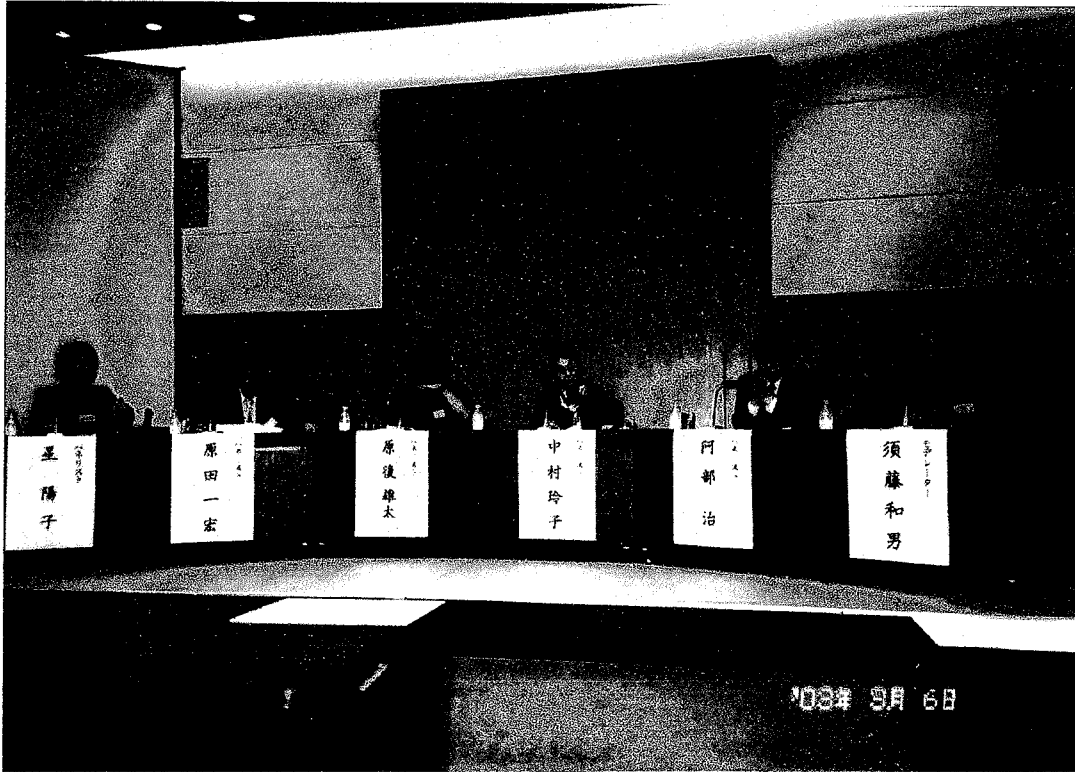
中村 玲子（なかむら れいこ）

ラムサールセンター（湿地と人間研究会）事務局長
専門分野：環境問題（とくに湿地、生物多様性）の普及啓発

東京女子大学を卒業後、ダイヤモンド社、日本野鳥の会事務局等を経て、1988年からフリーの編集者・ネイチャーライターとして活躍。1990年にラムサールセンター創設に携わり現職に至る。

「湿地の賢明な利用と住民参加の確保」をテーマに、環境分野の普及啓発・研究をおこなう。著書論文に「釧路湿原（朝日新聞社）」、「八代のナベヅル（中国新聞社）」などがある。

会場写真



パネルディスカッション



会場風景